

(別添3)

## 温室効果ガス削減中期目標に関わる世論調査集計結果(7月調査)

---

Q1.〔回答票1〕現在、地球温暖化を防止するために、先進各国は温室効果ガス削減の目標値を設定しています。わが国でも、2020年を目標に、その目標値をどう設定するかについて、政府を中心に議論が行われました。あなたは、この議論の結果、この6月に日本としての目標値が発表されたことをご存じでしたか。この中から1つ選んでください。(N=1305)

- 1 (14.5%) 発表されたことも、またその目標値の数字も知っている
  - 2 (50.9%) 発表されたことは知っているが、数字は知らない
  - 3 (30.7%) 発表されたことも数字も知らない
  - 4 (4.0%) わからない
- 

Q2.〔回答票2〕今後、国内で議論の結果定められた目標値を国際的な約束として認めもらうために、世界各国との話し合いが行われる予定です。先進各国が最大限の削減努力を行うことを前提に、この話し合いに臨むにあたって、どの考え方が将来の日本にとって最もよいと思いますか。あなた自身のお考えに最も近いものを1つ選んでください。(N=1305)

先進各国が最大限の削減努力を行うことを前提に・・・

- 1 (23.2%) 日本を含む先進国が、これまでに出してきた温室効果ガスの総量を地球温暖化を引き起こした「責任」として考えるのがよい
  - 2 (18.3%) 地球上に住む人々は同じだけ温室効果ガスを排出する権利があると考えて、一人当たりの排出量が長期的にみて公平になる値に設定すると考えるのがよい
  - 3 (30.3%) 世界の国の間で経済的な格差は大きいので対策に投資できる額に大きな差がある。各国のGDP（国内総生産：経済活動の大きさ）や、一人あたりのGDP（国内総生産の一人あたりの大きさ）をもとにして、考えるのがよい
  - 4 (11.3%) 世界各国との貿易面で不利にならないように、世界中で産業の同じ部門では、同じ程度の削減目標を持つとして考えるのがよい
  - 5 (16.9%) わからない
- 

(次ページに続く)

Q 3. [回答票 3] さらに、そのような世界各国との話し合いの一つの鍵が、地球温暖化（気候変動）の影響をできるだけ防ぐために、世界中の専門の科学者が出した必要な温室効果ガスの削減量です。これは、温室効果ガス排出量を 2050 年には 1990 年の 50%削減が目途とするものです。世界全体の地球温暖化（気候変動）の影響をできるだけ最小限に押さえることを前提に考えるとき、あなたは、どの考え方が世界全体を考えたときに、最も望ましいと思いますか。(N=1305)

- 1 (14.2%) 世界中の科学者の提案する削減量は今の世代に負担がかかりすぎる。現実的に対応できる範囲で議論すべきだ
- 2 (17.5%) 世界中の科学者の結論は将来世代を考えると重要である。先進国はこれまで温室効果ガスを排出してきた責任があるのだから、先進各国で必要な負担をすることを前提に考えるのがよい
- 3 (52.8%) 世界中の科学者の結論は将来世代を考えると重要である。この科学者たちの結論をもとに、先進国だけでなく、将来的に経済成長が見込まれる国々も相応の削減の義務を負うことを前提に考えるのがよい
- 4 (15.5%) わからない

---

Q 4. [回答票 4] 温室効果ガス削減も含め、あなたは、日本が地球温暖化（気候変動）問題に、これからどのような考え方で対応していくべきだと思いますか。あなた自身のお考えに最も近いものを 1 つ選んでください。(N=1305)

- 1 ( 3.2%) 地球温暖化（気候変動）は深刻かどうか分からないので、現在やっている以上のことは、何もしなくてもよいと思う
- 2 (32.0%) 地球温暖化（気候変動）は深刻かどうかに関わらず、世界の他の国も対策をとることを考えて、早めに対応した方が経済成長への影響が少なく済むから、早めに対応をすべきだと思う
- 3 ( 9.4%) 地球温暖化（気候変動）は深刻だと思うけれども、対策にかかる投資が非常に大きい金額になるならば、ある程度温暖化による自然災害などの被害が大きくなっても仕方がないと思う
- 4 (42.6%) 地球温暖化（気候変動）は深刻だから、対策にかかる投資がどれだけの金額になろうと、温暖化による自然災害などの被害が今以上深刻にならないように、できるかぎり早めに対応をすべきだと思う
- 5 (12.8%) わからない